

<祈りのために>

平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。

(マタイによる福音書5：9)

私たちは主イエスのこの言葉を素通りしたり、自分が聞きたいように聞いてはいないでしょうか。主イエスがもしもここで「平和を愛する人々は、幸いである」とか「戦争を好まない人々は、幸いである」とか言われたとしたら、私たちはほっと安心したでしょうが、主はあえて戦争から逃げる人ではなく平和を実現する人々が幸いなのだと言われるのです。よく考えると、これは肩がこりそうな言葉です。しかも私たちの力ではどうも出来ないことのように思ってしまうのです。

主イエスはさらに続けて、平和を実現する人々を神の子と呼ばれます。しかし、ここで語りかけられていた弟子たちと民衆は当時の世界ではごく普通の人たちでありました。

この時代、すでに神の子と呼ばれた人がいたのです。ローマ皇帝です。皇帝自身、自分が神の子と呼ばれ、礼拝されることを要求していました。このことを国民の側に立って考えてみると、誰もが平和を望んでいました。当然のことです。でも現実には人々の願いを裏切って戦争が起こることがあります。では平和を実現するために何が必要なのか、人々はどんな戦争にも勝ちぬく力を持つことだと考えたのです。最大の権力をもって世界を支配し、敵対する何ものをも寄せつけない人物こそ平和を実現する人なのだと、それは皇帝しかありません。だから皇帝は神の子という名前に値する存在だったのです。

力ある者こそ神の子にふさわしい、なぜなら平和を実現してくれるから、誰もがそう信じていた時代に主イエスは、平和を実現する普通の人たちこそ幸いであり、神の子と呼ば

れるにふさわしい、と教えられたのです。

戦争にのめりこんでゆこうとする人間社会の暗い大きな流れに抗して、平和な世界を実現しようとする神のみこころが現実の世界を変えてゆきます。とはいえ、その道はいつの時代にも曲がりくねっています。

日本をめぐる状況はたいへん厳しくなっています。いま沖縄県では辺野古での米軍基地建設以外にも、南西諸島で自衛隊のミサイル部隊が配備されるなど軍事要塞化が進められています。「中国の脅威に備えなければならない」という理由で。

かりに中国が台湾に軍事侵攻し、在日米軍が台湾を守るために出撃したら日本はいやおうなしに戦争に巻き込まれ、中国から米軍基地にミサイルが打ち込まれることも想定しなくてはなりません。そこで中国(と朝鮮など)を見据えて敵基地攻撃論が唱えられています。「抑止力の強化」のためですが、日本と「敵国」が同じように、相手にやられる前にやっつけてしまえとなるともはや戦争です。

このように緊迫した状況ですが、コロナ禍は私たちに、いくら強大な軍備があっても感染症を防ぐことができないことを実証しました。国と国との関係では外交も大切です。何より神は、権力者など一部の人たちではなく、普通の人たちが平和の担い手となることを期待しておられます。日本でもどこの国でも、平和を望む圧倒的多数の普通の人々が声があげて、手を取り合えば、どんな権力者でも戦争は出来ません。平和を実現し、神の子と呼ばれる、それはまさに主イエスを信じる私たちに指し示された道なのです。

<祈り> 神よ。イエス・キリストが打ち立てて下さった平和の中に、私たちをしっかりと立たせて下さい。

(井上 豊：広島長東教会牧師)

新シリーズ開始『その時に備えて Part 2』を読む（4）

小塩海平（東京告白教会長老）

Q3 キリスト者は、天皇や皇族が好きではいけないのですか？

A3 天皇や皇族に好意を持つこと自体は、悪いことではありません。ただ、天皇の影響力を利用する力とは、区別して考えた方がいいでしょう。

まず、「天皇制」という言葉があります。これは、天皇の影響力が及ぶさまざまなことを指す時に用いられます。1945年の敗戦まで、神格化された天皇は、憲法や法律の裏付けを伴った権威をもって国を統治し、その権威は神社など宗教的に装われて、人々の心をつかんでいました。それを利用して、権力者が戦争をしたことは、A1で触れました。

戦後、法律も政治の体制も変わり、神格化された天皇は、象徴に変わりました。しかし、天皇に対する人々の気持ちは、あまり変わらず、そこに問題も感じていないようです。このように、戦後も残っている天皇の影響のことも、「天皇制」の問題と捉えられています。

つまり「天皇制」とは、多くの国民の気持ちをまとめたり、あまり深く考えさせずに一つの方向に導いたりしたいと思うなら、とても便利なシステムとすることができます。そして、この力を利用したい人がいてもおかしくありません。

次に、芸能人やスポーツ選手を好きになる時もそうでしょうが、対象となる人物がどういう人なのかをよく知る必要があります。ただ天皇や皇族だから、という理由で好きになるとしますと、単に彼らを特別視しているだけ、ということになります。

天皇の本来の務めは、皇室神道の祭司です。そして天皇は、天照大神の直系であり、天照大神の霊を宿した「神」とされています。天照大神の霊が新天皇に宿る儀式が、代替わり儀式の頂点である「大嘗祭（だいじょうさい）」です。それは、皇室を継続させるために行われる、天皇の一大神事です。

日本の皇室は、イギリスの王室家族とよく類比されます。しかし、英国国教会では国王が首長でありつつも、一信徒であって神ではないのに対して、天皇は皇室神道の祭司であるばかりでなく、神でもあるというのは大きな違いです。キリスト者であるなら、相手をよく知った上で、好き嫌いの判断をしたらよいと思います。

もし、何も考えずに天皇や皇室をことさら重んじるようなことになれば、それは偶像礼拝に通じるということは、覚えておくことが大切でしょう。

《雑感》 私が学生時代に下宿をしていた大家さんは、代々、世襲により宮内庁に勤める雑務係で、昭和天皇が死んだ時、棺に釘を打った方でした。昭和天皇からもらったものは一切捨てられず、外国から送られてきた珍しいカエルを飼うために作った瓢箪型をした池のフタも、カエルが死んだ後、制作者であった大家さんに下賜されたそうで、倉庫に大切に保管されていました。

大家さんが皇居で転んだ時、私は下宿人ということで特別な許可をもらい、宮内庁病院を訪問させてもらいました。立派な建物に大勢の看護婦がたむろしていましたが、入院していたのは大家さんだけで、久しぶりの患者とのこと、20人ほどの看護婦に手取り足取り介護され、詳しい検査を受けていました。皇居に住んでいたたり、皇居で働いたりしているわずかな人のために、人材や設備が

湯水のように使われていることを私は初めて知りました。大家さんは昭和天皇と毎日顔を合わせていたようですが、お互いの関係が近すぎたからか、好きとか嫌いとかいう感情は、ほとんど意味をなしていないようでした。

逆に、私の場合、天皇とは会ったことも話したこともありませんし、直接的には特別な感情は湧きません。しかし、天皇や皇室によって苦しめられ、いじめられ、切り捨てられてきたアイヌや沖縄、部落の人々、あるいはかつて一視同仁というかけ声のもと、植民地にされていたアジアの人々と交流を持とうとする場合、どうしても天皇や皇室を好きになれそうにありません。

聖書が教えているのは、好き嫌いよりも、愛することだと思っています。私は、天皇に悔い改めを迫ることこそ、彼を愛することだと思っています。

第4章 戦後の朝鮮半島における日本人教会…戦後の朝鮮教会の出発…

「植民地朝鮮における日本基督教会に関する研究」の要旨(その3)

李元重著

1945年8月15日、日本の無条件降伏によって朝鮮の独立が訪れたので、半島全体は歓びで包まれた。その日を光が復帰された日という意味で「光復節」と名付けた。しかし朝鮮の独立は、朝鮮自らが勝ち取ったものでなかったことから、朝鮮民族の悲劇が生じた。

北緯38度を基準に、朝鮮半島の南部にはアメリカ軍が、北部にはソ連軍が駐屯して軍政を実施した。南部のアメリカと李承晩は単独選挙を強行し、李承晩を大統領に選出し、1948年8月15日「大韓民国」を成立させた。これに対してソ連は、24日後、北部で全朝鮮最高人民会議の議員選挙を実施し、「朝鮮民主主義人民共和国」を樹立し、金日成が首相に就任した。

朝鮮半島北部地域教会の再建運動

朝鮮教会の急務は、神社参拝などで損なわれた教会の再建だった。神社参拝反対闘争に積極的だった北部朝鮮教会の「出獄聖徒」は、1945年9月20日、教会再建の原則を発表した。「神社に参拝をした教会の指導者牧師及び長老は勸懲し、懺悔、浄化されて伝道の道に励むこと。牧師は自責・自粛し、最小2ヶ月休職して、痛悔・自服すること」などであった。しかし、神社参拝に参加した教会指導者らは、「獄中で苦勞した者も、教会を守るために苦勞した者も同じだ。教会を捨てて避難生活をした者や隠退生活をした者の苦勞よりは、教会を背負って日帝の強制に屈した苦勞を高く評価すべきだ」と主張した。こうして、神社参拝責任の問題は本格的に問われなかった。

朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の樹立

1948年9月9日、「朝鮮民主主義人民共和国」が樹立し、北部教会に弾圧を加えた。1954年8月の解放直後には、カトリックとプロテスタント2千以上の教会、2千名以上の教師と聖職者、30～35万の信徒がいたが、1949年には信徒が20万まで減少し、多くのキリスト者が越南した。北部教会のキリスト者は、共産主義政権と対決するか、「北朝鮮基督教徒聯盟」に加入するかの選択肢しかなかった。1950年6月25日の朝鮮戦争前まで、「北朝鮮基督教徒聯盟」に加入しない教職者は投獄され、その礼拝堂は閉鎖された。

朝鮮半島南部地域教会の再建運動

反共的アメリカ人宣教師の影響の強い北部教会の指導者たちは、当時、緊迫な問題だった共産主義勢力に対する共同戦線を作り、越南して教会の再建と政治的活動に励んだ。政治に積極的だったのは、キリスト教に敵対的なソ連と共産主義勢力の中で、自ら生き残るためであった。南部地域の教会は、北部出身の教会指導者たちに指導権を握らせ、李承晩などがキリスト者だったので、彼らに建国理念を提供した。

1946年6月、「朝鮮基督教徒南部総会」が開かれた。そこでは名称を「朝鮮基督教徒」と変更したが、植民地時代の日本基督教朝鮮教団の残滓を克服できなかった。神社参拝決議の取り消しはあったものの、神社参拝の責任を問わなかった。米軍政府と李承晩は、植民地時代に活躍した親日派人事を再任しからである。朝鮮統治の準備と知識のなかった米軍政府は、行政・治安の経験ある植民地時代の朝鮮人官僚・警察を再任したのである。

民族独立運動の終闘

1948年9月22日、「反民族行為処罰法」が制定され、日本帝国に積極的に加担した者、独立運動家に対して悪意をもって殺傷した者などの、反民族行為者への検挙活動を展開したが、権力を握っていた親日派系警察の反撃と、親日派を支持基盤とした李承晩などの妨害工作によって、1949年8月、その活動を終えた。

こうして、日本の教会と韓国の教会は、取り組むべき歴史的な区切りをとり組まず、再建を急いだことで、両者が同様の歴史的・神学的問題を抱えていたと言える。 大会靖国問題特別委員会委員 川越弘

<ヤスクニ問題関連ニュース> ※は小塩のコメントです。

○大震災犠牲者 歴史直視して追悼文を

関東大震災から 98 年。今日までさまざまな教訓が伝えられている。震災直後のデマで、多くの朝鮮の人たちが殺害された痛ましい事件もその一つ。過去の歴史を直視し、再発防止を誓いたい。

大震災で多くの犠牲者を出した墨田区の横網町公園には 1973 年、朝鮮人犠牲者追悼碑が建立された。震災を直接経験した人に加え、都議会全会派の幹事長も賛同する幅広い活動の結果だった。

その後、毎年 9 月 1 日には追悼式典がこの公園で開かれ、保守、革新を問わず、歴代の都知事が追悼文を寄せてきた。多くの目撃者が生存しており、都知事からの追悼文に疑問の声はなかった。

ところが小池百合子都知事は、就任翌年の 2017 年の都議会で、追悼文の取りやめと「犠牲者は六千人」と刻む追悼碑の撤去を求められ、この年以降、「全ての震災犠牲者を追悼する」などとして、追悼文を送付していない。<中略>

小池氏は、東京に多様性、人権尊重を根付かせ、真の共生社会を目指すことを表明してきた。ならば、自分の言葉に恥じないように、誠実に行動すべきではないか。（東京新聞社説：2021.09.01）

○太平洋戦争開戦直前 昭和天皇の心情 侍従長の日記で明らかに

太平洋戦争が始まる直前の昭和 16 年 11 月、昭和天皇が開戦に前向きな決意を示していたと取れる記述が、当時の側近の日記に残されていたことが初めて明らかになりました。

（元海軍大将の百武三郎が在任中に記した日記は）開戦 18 日前の昭和 16 年 11 月 20 日には、開戦を避けるためのアメリカとの交渉について、昭和天皇に説明してきた内大臣の木戸幸一から聞いた話を記していました。木戸は昭和天皇の様子

について「上辺ノ決意 行過キノ如ク見ユ」と百武に語っていて、開戦に前向きな決意をしているように見えたこと、懸念を示していたことが分かります。（NHK；2021.09.01）

○特集『秋篠宮家』失墜 次は「佳子さま」の乱

「麗澤大学の八木秀次教授は危機感を募らせる。『眞子さまのご結婚は、佳子さまのみならず、将来の皇位継承にも悪影響を及ぼす恐れがあります。眞子さまにご結婚の自由を認めた以上、悠仁さまの即位についても自由意思を認める事態になりかねないからです。……中略……悠仁さまが即位されたくないというご意思を表明された場合、それを認めないわけにはいかなくなります。英王室では、エドワード 8 世が離婚歴のある米国人女性と結婚するために退位した“王冠をかけた恋”が有名ですが、それと同じことが日本の皇室で起きないとは言い切れません。』

皇族の身分を捨てて新天地に旅立とうとするプリンセスの一途な愛によって、秋篠宮家、ひいては皇室が危機を迎えようとしている。」（週刊新潮：2021.09.23）

※ DIAMOND ONLINE（9 月 2 日）によると、この結婚には 3 つリスクが伴うという。例えば、元皇族が海外生活することによってスキャンダルが曝露されるリスク。「日本の皇室は、今の時代にあり得ないような女性差別が行われている」というような話が発覚したらどうなるのか。他の二つのリスクは、「小室さんのメーガン妃化」と「眞子さまの新興宗教広告塔化」とのこと。

誰に対するリスクを論じているのだろうか…。

801号ヤスクニ通信 2021年10月10日 発行 日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会 発行人・編集・発行 小塩海平（東京告白教会）
--

<編集後記> 自民党総裁選。候補者は靖国参拝について、岸田「時期、状況を考えた上で参拝」、高市「参拝」、野田「総理総裁という公職では致しません」、河野「総理在任中は致しません」と答えた。一見、靖国公式参拝反対に見える後二者も、野田は天皇の靖国参拝の実現を願っており、河野は「日本の礎は皇室と日本語」などと述べている。靖国神社問題特別委員会は次年度も忙しくなりそうだ。K. K.